

令和元年度 小樽支部活動報告

研究主題

心豊かに学び、達成感を感じる体育活動の創造

1 研究の概要

全国体力・運動能力調査の結果から本道の子どもたちは体格で全国平均を上回っており、小樽市においては、5年生女子以外は全道平均を上回っているが、男子児童・生徒の肥満傾向が高くなっている。(中2男子は全国のほぼ2倍)また、体力の面においては、小中学校いずれも全国平均値を下回ったが、小学校女子・中学校男子では全国との差が縮まり小学校女子は過去最高値となった。

学校体育においては、生涯体育・スポーツと「健やかな体」を育むことを目指し、児童・生徒が進んで、運動に親しむ習慣や能力、意欲、態度を身につけ、生涯にわたり明るく生活を営むための基盤づくりを行う指導を充実させることが大切である。

そこで本研究会では、研究主題を「心豊かに学び、達成感を感じる体育活動の創造」とし、本市の体力の現状及び学習指導要領の趣旨を踏まえ研究を進めることとした。

また、子ども達の体力の向上を図るためにには体育授業を中心とした指導方法の工夫改善を行うことや児童・生徒が進んで体を動かせる環境づくりを進め、学校の教育活動全体を通じた指導の充実が不可欠である。また、小中が連携して指導の継続性や系統性を押さえた指導が重要でありこの点を踏まえた研究を目指すこととした。

2 今年度の研究の取組

(1)研究授業の実施

<授業研究の視点>

- ① 基礎基本の定着 ②体力の向上 ③運動に親しむ態度 ④学び合う活動の充実

3 今年度の研究の実際（公開研究授業）

日時 10月23日（水） 場所 小樽市立北陵中学校 授業者 庄司 真人 主幹教諭

単元名

「ダンス（チーム・ダンスエアロビック）」

単元の目標

- (1) ダンスエアロビックの特性に関心を持ち、仲間とともにお互いを認め合い、楽しさや喜びを味わって進んで学習しようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) グループの課題や事故練習の計画に応じて工夫して練習したり、交流や発表の仕方を

工夫したりする。【思考・判断】

- (3) 簡単な動きやまとまりのある動きを工夫したりして、音楽のリズムやビートに乗って仲間と楽しく踊る。【技能】
- (4) チームエアロビックの特性、活動の鑑賞や評価について理解する。【知識・理解】

授業の展開

1. 〇本時の展開 ○学習内容				
	☆生徒の学習活動	★教師の支援	◆評価	
導入	<p>【課題の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整い、あいさつ、人員確認 ○基本曲を紹介し、確認する。 ○基本の動きを説明する。 ○創作の手順などを説明する。 ○創作の意図を説明する。 	<p>☆集合し、元気よくあいさつ ☆「A」「A'」で踊り確認する。 ☆基本の動き、創作の手順などを確認する。</p>	<p>★出欠、健康観察 ★ステージで模範を示す。 ★基本の動きや創作がスマートにいくよう子どもたち1人1人に気を配り説明をする。</p>	<p>※指導の意図が伝わるよう支援する。(特支) ・必要に応じてICT機器を活用する。</p>
	【本時の課題】みんなで協力して「Bバターン」のステップをつくることができるか。			
展開	<p>【思考・話し合い】</p> <p>○「Bバターン」を各グループに分かれて創作する。</p> <p>【Bバターンを生む出すためのヒント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクワット ・ランジング ・キック(フロント) ・ジャンピングジャック ・ランニングマンなど <p>※上記の動きなどを元に、「Bバターン」の動きなどを見つけ出す。 ※8呼問×4種類の動きを創りだす。</p>	<p>☆ミニ一覧を面白い動き、音楽のイメージから出てくる動きを各グループで創作する。</p> <p>☆音楽のイメージから主に手の動きなどを見つけ出す。</p> <p>【言語活動】 ・「動きのコツ」や「振付」をわかりやすい言語で表現し話し合い活動や教え活動をする。</p>	<p>★各グループを巡回しながら、音楽のイメージに合うステップやユニーフィード等を指導する。 ★基本の動きを踏まえた上で、主に手の動きなどに着目できるよう指導する。 【言語活動】 ・比喩、擬音語、擬態語などを活用させ、イメージが引きやすいように支援する。 【C評価への手立て】 ・運動例を示して、どの動きが自分が何の動きに合っているのかを考えさせる。</p>	<p>◆グループ(チーム)の課題などに応じた練習したり、交流した上でできる。 【思考・判断】 【対話的つながり】 ※動きのイメージが理解できるよう支援する。(特支) ・必要に応じてICT機器を活用する。</p>
	うごく → りかえす → できる			
応用	<p>【共有】</p> <p>部分発表</p> <p>○各グループごとに創作した「Bバターン」を発表する。</p>	<p>☆各グループごとに本時でできたところまで「Bバターン」を、A、A'を通して発表し合う。</p>	<p>★恥ずかしがらず発表し、評議や評価もしっかりとできるよう指導する。</p>	<p>※積極的にできるよう支援する。(特支) ・必要に応じてICT機器を活用する。</p>
まとめ	<p>【まとめ・確認】</p> <p>○反省、練習内容の検討 ※個人及びグループの課題は達成できたか反省する。</p> <p>○次時の連絡、確認 ○整列、あいさつ</p>	<p>【言語活動】 ・工夫した点について具体的に書く。 ☆学習カードに感想、反省を記入させる。 ☆後片付けをする。</p>	<p>・全体会で交流し、評価助言を加え、内容の充実を図る。 ★本時の活動が振り返らねる時間である。 ★本時の反省をする。 (健康状態の把握をする。)</p>	<p>※振り返れるよう支援する。(特支)</p>

4 研究の成果と今後の課題

- 研究授業は、今年度も小樽市教育研究会中学校体育部会との連携により実施することができた。題材は「ダンス(チーム・ダンスエアロビック)」であった。
研究協議では以下ののような点が成果として挙げられた。
 - 液晶テレビ(VTR)やホワイトボード等の活用により、課題の把握や見通しを持たせることができていた。また、ゴールをイメージすることができていた。
 - 全国体力・運動能力テストで「体育の授業は楽しい」と答えた児童生徒は全国比で高い傾向にあり、「体育の授業で目標が提示された」と答えた児童・生徒は全国比平均9ポイント上回るなど授業改善が進んでいる。

5 次年度への展望

今年度も小樽市教育研究会中学校体育部会との連携により研究授業を実施することができた。来年度も研究授業を継続して実施できればと考えている。小学校からの参加者を増やしながら活動を充実させていきたい。